

バルコニーで「コニーデ」

中村 龍介

我が家のバルコニーからは天気の良い日には富士山が良く見える。

近年、世界遺産に登録された富士山。その美しさの最大のポイントは稜線の形だろう。円錐型の稜線は積層火山特有のものだ。積層火山とは、ひとつの火口から何度も噴火を繰り返す、その周辺に溶岩や火山岩が積み重なってできた山だ。

通常、円錐型の形状になるが、その形状を「コニーデ」と呼ぶ。ドイツ語から借用したものだ。

日本には円錐型の火山が多い。鳥海山、開聞岳、羊蹄山……。それぞれ、出羽富士、薩摩富士、蝦夷富士などと呼ばれるが、富士山の美しさにあやかっつてつけられた名前だ。

我が家から富士山は西の方向にあるので、夕焼けに浮かび上がったコニーデは特に美しい。中でも、年に二度、頂上に太陽が沈むときがある。ダイヤモンド富士と呼ばれる。

是非、ダイヤモンド富士をカメラに収めたいと思うのだが、現在のマンションに越してきて十年、一度もチャンスが訪れなかった。

今年の二月十六日、そのチャンスらしきものがやってきた。西の空が澄みわたり、富士がくつきり見える。カメラを手に、待ち構えた。五時を過ぎる頃、太陽の位置がどんどん降りてきた。もう少しで頂上に達すると思われた時、

「ピン・ポーン！」高らかにインターフォン。

バカもーん！ 何でこの時間に！ 昨日、不在にしていた宅急便の再配達だ。この日の午後を指定していたので仕方がない。内心、罵りながらクロネコ宅急便を受け取った。

慌ててバルコニーに戻ってみると、夕陽は既に山陰に隠れていた。が、その直後、思いがけないことが起こった。

空全体が黄金色に輝いたのだ。ほんの数分間だが、金色の世界が眼の前に広がった。空の雲、川面に輝く光、すべてが黄金に染まっている。ダイヤモンド富士のことなどすっかり忘れて夢中でシャッターを切った。



夕焼けの空は時々刻々その姿を変える。気がつくと、もう空は何時もの茜色に変わっていた。多摩川の向こうに繰り広げられる夕焼け空のドラマは正に自然の織りなす芸術だ。素晴らしい自然のドラマに出逢うたびに、このマンシヨンに越してきた幸運に感謝したい気持ちに駆られる。

今年、もう後期高齢者。我が人生の終局をバルコニーでコニーデを眺めながら美しく老いたい。

【二〇一五年二月記 原稿用紙二・五枚 課題「形」】